

「東京湾漁場図」を読み解き、東京湾のいまを考える勉強会 開催のおしらせ—ぜひご参加ください—

2009年7月25日

関係各位。

「東京湾漁場図」を読み解き、東京湾のいまを考える会
開催呼びかけ人代表
林しん治（東京湾の環境をよくするために行動する会（略称：東
京湾をよくする会）理事長、金沢八景-東京湾アマモ場再生
会議元代表、人間総合科学大学客員教授）
事務局・連絡先：中島 満（まな出版企画・フリーライター）
（〒165-0025、東京都中野区沼袋1-5-4、電話：
03-3319-3127、Fax:03-3319-3137、E-mail:CBA02310@nifty.com）

皆様、ご清栄のことと存じます。

さて、本年(2009年)4月28日に、水産総合研究センター中央水産研究所の図書資料館により「図書資料デジタルアーカイブ」が公開されました。江戸時代の東京湾漁場の釣り場の資料として一級文書である「何羨録（かせんろく）」のほか、明治41年に泉水宗助により公刊された東京湾内のモバ・干潟・漁場名を詳細に記した「東京湾漁場図」などとても貴重な資料が多数含まれています。同資料館は、水産庁の水産資料館に保蔵されていた渋沢敬三の私設文庫「祭魚洞文庫」の水産漁業セクションの資料群を一括受け入れ、所蔵公開をしています。東京湾漁場図のデータを調査した明治10年代の「東京湾漁場調査報告」（農商務省水産課金田帰逸らの実行執筆）とともに、現東京湾の、埋め立てられ、変貌した姿の明治初期段階の漁場・水系・地形や資源などの姿を現代に示してくれる貴重な資料です。また、江戸時代における東京湾漁場のすがたや水産資源を推測するための資料ともなりうるものです。

皆さんご存知のように、現在、水産漁業はとても厳しい時代を迎えています。沿岸漁業における沿岸域の漁場を見直し、少しでもよい漁場を回復することが焦眉の課題です。一方では、環境省、国土交通省、農林水産省などの国の省庁、また、地方公共団体の他、NPO、企業、大学・研究機関などの多くのセクターの方々が、沿岸域の自然再生の重要性を認識し、そのために努力をしています。とりわけ、その後背地に多くの人口と産業を抱えた内湾における都市と自然との共生の課題は、大変重要であり、東京湾についても例外ではありません。

今回の「何羨録」「東京湾漁場図」等の公開を機会に、かつての東京湾がどのようなものであったのか、現状はどのようになっているか、今後どのようにしていくべきか、という視点で、関心をお持ちの方々にお集まり願ひ、勉強会の開催を企画いたしました。

私どもは、水産総合研究センターの関係者や東京海洋大学附属図書館、その他の資料所蔵者をご相談し、資料実物（複製）の展示・公開等に対してもご協力を頂けることとなっております。また、会場には、東京湾のいまを考える各種の書籍・資料等の展示・販売・配布コーナーも設置しております。

150～200年前の文献に目を向けることは、単に一部の専門家や好事家の興味をひくだけでなく、現在と未来に向けた課題を明らかにすることになると思われます。

「東京湾漁業図を読み解き、東京湾のいまを考える会」を、以下のプログラムで開催いたしますので、ご出席いただければ幸甚に存じます。また、同会は、出席自由ですが、配布資料の印刷、会終了後の関連情報の送付に利用させていただくために、参加申込書を表記事務局まで8月30日までにお寄せ下さればさいわいです。

[開催案内とプログラム]

会の名称：「東京湾漁業図を読み解き、東京湾のいまを考える会」

主催：「東京湾漁場図」を読み解き、東京湾のいまを考える会

共催：東京海洋大学江戸前ESD協議会 ※

東京湾の環境をよくするために行動する会（略称：東京湾をよくする会）

開催期日と時刻：2009年9月6日（日曜日）午後1時～5時（開場11時30分）

会場：東京海洋大学（品川キャンパス）（品川駅から徒歩約10分）大講義室（200名程度の収容が可能）交通手段：<http://www.kaiyodai.ac.jp/info/access/access.html> を参照

プログラム（予定）：

- 開会（13：00） 開会挨拶：林しん治（呼びかけ人代表）〔司会：中島満（フリーライター）〕
- 講演（13：15～15：00）
 - ① 東京湾漁場図に含まれた情報を読む—漁場図の成立と桜田勝徳：尾上一明氏（浦安市教育委員会）
 - ② 江戸の釣り書「何羨録」を読む—江戸前の海はどんな姿だったのだろう：長辻象平氏（「江戸の釣り」著者・産経新聞社論説委員）
 - ③ 明治期に記録された東京湾の魚介類相—農商務省水産局「東京湾漁場調査報告」と「漁場図」に描かれている現代へのメッセージ：西野雅人氏（魚類考古学研究・千葉県教育振興財団文化財センター）
- 東京湾をどうする「メッセージ」（15：15～15：45）：現在、東京湾を中心にいろいろな保護再生活動されている方々からの現場からのメッセージ（10名ほど）
- 総合討論：（15：45～16：50）：江戸前ESD協議会の進行により、質疑応答・ご意見のとりまとめを行ないます。
- 閉会挨拶（16：50～17：00）：河野博（東京海洋大学江戸前ESD協議会代表）

費用負担等：東京湾漁場図原図縮小複写及びその解説など資料代（1000円）を徴収します。（なお会終了後、懇親会を開催する予定でおります。懇親会参加を希望される方は、参加申込書の該当欄にその旨ご記載いただければと思います。）

参加申し込み連絡先：中島満（〒165-0025、東京都中野区沼袋1-5-4、電話：03-3319-3127、Fax：03-3319-3137、E-mail：CBA02310@nifty.com）

※平成20年度財団法人日本生命財団の助成をいただいで活動しています。

「東京湾漁場図」を読み解き、東京湾のいまを考える会「呼びかけ人」
(五十音順)

- 秋道智彌 (総合地球環境学研究所教授)
池 俊介 (早稲田大学大学院教育・総合科学学術院教授・地理学者)
磯部雅彦 (東京大学 副学長)
大野 淳 (東京海洋大学元教授)
小倉久子 (千葉県環境研究センター水質地質部水質環境研究室)
金萬智男 (東京湾に打瀬船を復活させる協議会)
工藤孝浩 (神奈川県水産技術センター)
清野聡子 (東京大学大学院 総合文化研究科)
関いずみ (東海大学海洋学部海洋文明学科准教授)
関根幹男 ((株)フィスコ)
田渕 誠 (水産総合研究センター中央水研図書資料館長)
田村典江 (アマタ株式会社持続可能経済研究所)
中島 満 (まな出版企画・フリーライター)
中瀬勝義 (メルマガ「お江戸舟遊び瓦版」発行・エコライフコンサルタント)
中村由行 (独立行政法人港湾空港技術研究所研究主監)
新美貴資 (水産ジャーナリスト)
林しん治 (東京湾をよくする会理事長、人間総合科学大学客員教授)
福地享子
藤野修二郎 (海の森づくり推進協会事務局長理事)
松田裕之 (横浜国立大学統合的海洋教育研究センター教授、グローバル COE
“Eco-Risk Asia” プログラムリーダー)
森田健二 (海辺つくり研究会)
家中 茂 (鳥取大学地域学部准教授)

参加申込書

返信先：中島満（〒165-0025、東京都中野区沼袋1-5-4、Fax：03-3319-3137、E-mail：
CBA02310@nifty.com）

お手数ですが、参加される場合マルをかきいれ、ファックスなり、ファイル添付により
返信してください。8月30日（日）までに参加申込書が届くようにご配慮下さい。

「東京湾漁場図」を読み解き、東京湾のいまを考える—勉強会参加申込書

参加しま す	YES	マル	お名前と記載所属名・かたがき
			お名前： ご住所： 所属団体・機関名：
			メールアドレス： 電話番号（差し支えなければ）：
懇親会に 参加	YES NO		

◎ また、ご意見がございましたら、以下にご記入の上、ファックスなりファイル添付で、
ご返信ください。

ご意見